

小学部 3・5・6 年 算数科 学習指導案

日 時：10月3日(木)2校時

場 所：小学部5・6年教室

児 童：小学部 3年生 1名

5年生 1名

6年生 1名

指導者：東海林紗季子(T1)、渡邊芽生(T2)

1 さんすうダンジョン②～長さくらべをしよう～

2 単元の見目標

- (1) 長さを比べる方法を知り、2つの物の長さを正しく比べることができる。(知・技)
- (2) 2つの物の長さを比較し、「長い」「短い」「同じ」を判断し、言葉で伝える。(思判表)
- (3) 提示された課題を解く(以下ミッションをクリアすると記す)のために、みんなで長さを比べる。(学、人)

3 児童と単元

(1) 児童について

本学習グループは、小学部6年男子1名、5年生男子1名、3年生女子1名の合計3名で構成されている。全員、自閉症スペクトラム症の児童である。言葉による指示を理解して活動に取り組むことができるが、他のことに注意がそれているときや、学習活動に見通しがもてないときに活動に取り掛かるまでに時間が掛かることが多い。そのため、1対1で個別の言葉掛けが必要な場面が多い。また、集中力を維持することに課題があり、一定の時間、椅子に座って学習し続けることが難しい。3人とも、動画を見たりゲームをしたりすることが好きで、好きなものに関連付けた学習に対する意欲は高く、主体的に取り組む姿が見られる。

3人とも、差が大きい具体物の長さを比較し、長いものを「長い」と答えることはおおむねできる。しかし、「短いものはどちらですか?」と問い掛けられると答えられず、長さの差が小さい物だと比較すること自体が難しい。「長い」「短い」「同じ」の概念と言葉との結び付きの理解が不十分であり、長いものを「大きい」、短いものを「小さい」と答えたり、比べた時に長さが同じのものを「おなじ」という言葉で表現できなかったりする。5年生の児童は、昆虫の図鑑を見て「角が長い」「体長、10センチ」などと話すことがある。しかし、センチメートルが長さの単位であることは理解できていない。他の2名は日常生活の中で教師から「どちらが長いですか?」と問い掛けられると答えることはできるが、自分から「〇〇が長い」と話すことはまだない。これまでに実際の具体物の長さを比べる機会がほとんどなく、端をそろえる、並べる、重ねるなどの直接比較の方法についての理解はまだできていない。また、曲がっている物や直接比べることができない大きな物などの長さを測る経験がほとんどないため、間接比較の方法は知らない状態である。本単元全体を通して、身近な物の長さに興味をもって比べようとする姿を目指していきたい。

(2) 単元について

本単元は、年間を通して、長さや重さを比べ、数の多少と長短や軽重の関係について学んだり、すごろくゲームを通してサイコロの数字と進むマスの数量の一致を図ったりする。

「さんすうダンジョン①～かずをくらべよう～」では、すごろくゲームや魚釣りゲームを通して、具体物の数量の多少を比較する学習に取り組んだ。児童が興味のあるロールプレイングゲームの要素を取り入れ、学習課題をミッションに見立てることで「サイコロ振りたい!」「ミッションクリアしたい!」と発言し、意欲的に学習に取り組むことができた。そのため、本単元でもすごろくゲームでダンジョンを進みながら、止まったマスでの長さ比べのミッションに取り組み、アイテムをもらって、レベルアップしていくという形を継続している。

長さを比べるミッションの中では、端をそろえる、並べる、重ねるといった直接比較のやり方、ひもを使って長さを写し取って比べる間接比較のやり方を取り上げる。本単元では、直接比較にピタッとくん、間接比較にリボンちゃんという計測器を用いる。ピタッとくんとは、比べるものの端をそろえて置き、上からバーを下ろしてくることで長い方にバーがぶつかり、長さを比べられる教具である。比較すること事態の経験が少ない児童達が、バーがピタッとくつつくものが「長い」、バーとの間に隙間があるものが「短い」という概念を教具を操作しながら身に付けたり、端をそろえる、隣りに並べるなどの直接比較のやり方を段階的に身に付けたりすることができると考える。また、学習の中でフォークや色鉛筆、ステッキや剣の模型など様々な物の長さを比べることで、長さを比べる対象が変わっても同じ比べ方ができると「長い」「短い」「同じ」の言葉と概念の結び付きを身に付けていけると考えた。そして、生活単元学習の畑の学習で「どのきゅうりの長が一番長いですか?」や日常生活の掃除の場面で「箒が長いと遠くまできれいにできますね」などと長さについて考えるきっかけになる問い掛けをすることで、本単元の学びを他の場面で生かし、学びの定着、発揮ができ、学びの実感につながると考える。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・児童が見通しをもって取り組めるように、学習の流れを黒板に提示したり、活動の順番や流れを一定にして繰り返したりする。(主)
- ・児童が意欲的に取り組めるように、長さ比べの学習活動をミッションとし、クリアするとレベルアップしたり、アイテムがもらえたりする設定にする。(主)
- ・測るものが変わっても同じ測り方で測ることができることに気付けるように、様々なものを比べる学習活動を設定する。(深)
- ・自分で「端をそろえる」「隣り並べる」などの長さの比べ方のポイントに気付けるように、前時までに学習したポイントを黒板に掲示する。(深)
- ・長さを測ることに興味をもてるように、紙コップを積み上げたり、リボンをつなげたりして長さを競うゲーム形式の活動を取り入れる。(主)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・学習の記録を写真に撮って残したり、個人の長さ比べの結果を写真でみんなに共有したりするために、ロイロノートを使用する。(対)
- ・モニター、黒板、各自の iPad のどこに注目すればよいか分かるように、使用しない時はモニターを消したり、使う直前に iPad を配ったりする。(主)
- ・前時の学習を思い出すことができるように、授業のはじめに前時の板書の写真を提示する。(主)
- ・長さの違いが分かりやすいように、単元のはじめは長短の差が大きい教具を使用し、徐々に差が小さい教具を使用していく。(深)
- ・長さに関する言葉を覚えられるように、「長い」「短い」「同じ」などの言葉をクイズとして毎時間提示する。(深)
- ・児童が自分で比べ方を考えることができるように、あえてポイントを授業の始めに確認せずに、振り返りの場面で「どうやって比べたか」と問い掛けて、全体に共有する。(深)
- ・児童が端をそろえたり、隣り合わせにしたりして長さを比べることができるように、ピタッとくんという測定器を使用する。(主)
- ・児童が曲がっているものや、大きいものの長さを写し取って比べることができるように、リボンちゃんという測定器を使用する。(主)

〈教師の働きかけ〉

- ・児童が自分で測り方を考えることができるように、児童の発言を待ったり、「黒板にヒントはないですか?」「ポイントは何でしたか?」などと言葉掛けをしたりする。(主・深)
- ・他の児童の取り組みに関心をもてるように、「〇〇さんはどうしていますか?」「〇〇さんにどうしたらいいか聞いてごらん」などと言葉掛けをする。(対)
- ・授業のスムーズな進行のため、T 1 が全体の進行、T 2 が I C T 機器の操作とミッションの提示をする。

4 指導計画(総時間数 16時間)

単元名、学習内容	目標	時数	関連する 学習指導要領の項目
○さんすうダンジョン② ～ながさってなに?～ ・長さの比べ方 ・「長い」「短い」の言葉の意味	・「長い」「短い」の言葉や長さの比べ方を知り、比べてみようという気持ちをもつ。(知・技)(学、人)	2時間	2段階 ア目標 C 測定アイウ イ内容 C 測定ア(ア)㊦㊧ (イ)㊦
○さんすうダンジョン② ～ながさをくらべよう～ ・ピタッとくんで長さ比べ(直接比較) ・リボンちゃんで長さ比べ(間接比較)	・2種類の比べ方を知り、2つのものの長さを正しく比べる。(知・技) ・長さを比べた結果を判断し、「長い」「短い」「同じ」の言葉で伝える。 (思判表) ・長さ比べのミッションをクリアするために、自分から長さを比べようとする。(学、人)	12時間 (本時 7/12時間)	2段階 ア目標 C 測定アイウ イ内容 C 測定ア(ア)㊦㊧ ㊧(イ)㊦ ウ数学的活用 ア(ア)(イ) 3段階 ア目標 C 測定アウ イ内容 C 測定ア(ア)㊦

○さんすうダンジョン② ～ピタッとくんかりボンちゃんか選んで長さを比べよう～ ・ピタッとくんかりボンちゃんを選んで長さ比べ	・比べるものに応じて、直接比較と間接比較から適切な方法を選び、正しく長さを比べる。 (知・技) (思判表)	2時間	2段階 (1) ア目標 C 測定アイウ イ内容 C 測定ア (ア) ㊦㊧ ㊦ (イ) ㊦ ウ数学的活用ア (ア) (イ) 3段階 ア目標 C 測定アウ イ内容 C 測定ア (ア) ㊦
---	--	-----	--

5 本時の計画 (総時数 9 / 16)

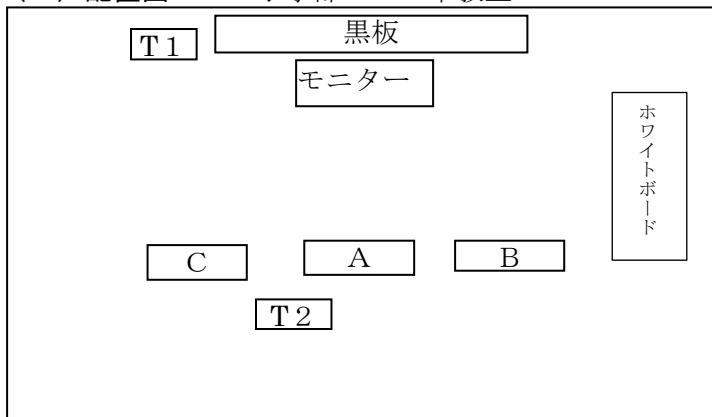
(1) 全体の目標

- ・比べるものの端をそろえる、隣りに並べるなどのポイントに気を付けて、ピタッとくん (測定器) で、2つのものの長さを比べる。(知・技)
- ・長さ比べの結果を「長い」「短い」「同じ」の言葉や指さしなどで表現する。(思判表)

(2) 個別の目標

氏名	児童の実態と学習の様子	単元の目標	本時の目標
A	15 cm以上の差が大きいものであれば正しく長い方を答えることができる。しかし、周囲の言葉を聞いてそのまま話していることもある。長さの差に注意が向いていないことが多く、差が小さい物だと正しく長さを比べることが難しい。興味がないことだと集中力を持続することが難しく、離席したり、教師の言葉掛けに反応しないことが多い。	・2種類の比べ方を知り、2つのものの長さをポイントに気を付けて比べる。(知・技) ・長さを比べた結果を判断し、「長い」「短い」の言葉や、具体物に触ることで伝える。(思判表) ・長さ比べのミッションをクリアするために、自分から長さを比べようとしていたり、友達の様子に注意を向けたりする。(学、人)	・ポイントに気を付けてピタッとくん (測定器) を使い、複数の物から1番長いものを見付ける。(知・技) ・長さを比べた結果を判断し、「長い」「短い」の言葉や、具体物に触って伝える。(思判表)
B	5 cmほどの差があるものの長短は正しく答えることができる。また、好きな昆虫の図鑑を見て、「角が長いね」と話すことがあり、長さの量的な感覚はもっている。比べるものの端をそろえて比べることはおおそできて、隣りに並べることはまだ身に付いてない。学習に積極的に取り組んでいるが、楽しくなりすぎて、立ち上がってしまうこともある。	・2種類の比べ方を知り、測るものに合わせて比べ方を選び、ポイントに気を付けて2つのものの長さを比べる。(知・技) ・長さを比べた結果や判断した理由を、簡単な言葉で伝える。(思判表) ・長さ比べのミッションをクリアするために、自分から長さを比べようとする。(学、人)	・ポイントに気を付けてピタッとくん (測定器) を使い、たくさんの物から違う長さのものを見付ける。(知・技) ・長さを比べた結果を「上がピタッとくつついてるから長い」「隙間があるから短い」などの言葉で伝える。(思判表)
C	15 cm以上の差が大きいものであれば、「長い」と答えることができる。短いものをよく思っていないようで「短い」という言葉を使いたがらない。学習に意欲的に取り組む一方で、間違えることが許せず、「もう1回やって！」と正解するまでやりたがることもある。	・2種類の比べ方を知り、ポイントに気を付けて2つのものの長さを比べることができる。(知・技) ・長さを比べた結果を判断し、「長い」「短い」の言葉で伝えたり、長い方を指さしたりして伝える。(思判表) ・長さ比べのミッションをクリアするために、自分のミッションに最後まで取り組む。(学、人)	・ポイントに気を付けてピタッとくん (測定器) を使い、いくつかの物から1番短いものを見付ける。(知・技) ・長さを比べた結果を「長い」「短い」の言葉で伝えたり、指さしたりして伝える。(思判表)

(3) 配置図 <小学部5・6年教室>

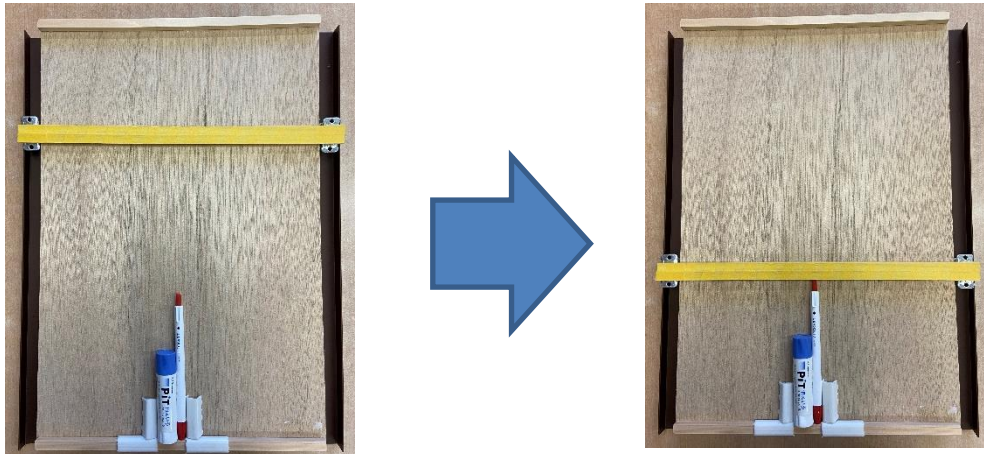


(4) 板書計画

さんすうダンジョン②～ながさくらべをしよう～	
めあて ほんものの〇〇を見つけるために ただしくながさを くらべよう	ポイント ○したにピタッとくっつける ○うえにピタッとくっつける ○となりにならべる ○まっすぐおく
やること 1 あいさつ 2 はなしをきく 3 ダンジョン 4 ミッション 5 ふりかえり	

(5) 参考資料（教科書や教材等）

○ピタッとくん（測定器）



2つのものを置き、上からバーを下ろしてくると、長いものにバーがぶつかり、長さを比べることができる。ペンやのりなどの筒状の物が転がらないために取り外しができるストッパーを付けている。

○ダンジョンマップ（冒険的な迷路の地図）



○児童のロイロノートの画面

①



②



ミッションをクリアできたら、児童の iPad にアイテムを追加したカードが送られる。(①)
次に、プロフィールカードが送られ、児童が自分でレベルの数字を打ち込んで、教師に送り返す。(②)

(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、学びの実感を高める働き掛け、手立て。
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (2)	1 はじめの挨拶をする。	・椅子に座って話を聞くことができるように全員が椅子に座るまで待ったり、できている児童を称賛したりする。(T 1、T 2)	モニター iPad
9:47 (5)	2 本時の学習を見通す。 (1) 前時の振り返りをする。 (2) めあての確認をする。	・前時の学習を思い出すことができるように、前時の板書の写真をモニターに提示する。 ・「長い」「短い」「同じ」の言葉にたくさん触れることができるように、用語を穴抜きにしたクイズを提示しながら、用語の確認をする。(T 1)	
	めあて ほんものの〇〇をみつけるために ただしくながさを くらべよう		
9:52 (28)	3 長さ比べをする。 (1) Cがダンジョンを進めるために、サイコロを振る。 (2) それぞれピタッとくん(測定器)で剣・ステッキ・杖の模型の長さを比べる(ミッション)。 (3) 比べた結果をiPadで写真に撮り、ロイロノートで教師に送る。	・意欲的に長さを比べることができるように長さを比べる必然性のあるミッションを設定する。 ・比べるものを固定し、端をそろえて比べることができるようにピタッとくん(測定器)という教具を用意する。 ・長さを正しく比べることができるように、あえて差の小さい比べる必然性のある剣やステッキ、杖などの模型を用意する。 ・ 長さを比べるときのポイントを意識して比べることができるように、黒板にこれまで学習した測り方のポイントを掲示したり、注目してほしいところに印を付けた教具を使用したりする。	サイコロ ダンジョン マップ ピタッとくん(測定器) 剣 ステッキ 杖
10:20 (9)	4 本時の振り返りをする。 (1) 一人ずつ前に出てきて実際にピタッとくん(測定器)で比べる。 (2) 動画を見て長さを比べるポイント意識して比べることができたか振り返る。 (3) ミッションの結果発表を聞く。 (4) ロイロノートでアイテムをもらい、レベルアップする。	・自分の取組や友達の取組を振り返ることができるように、動画を提示する。(T 2) ・ C、Aが比べ方のポイントに気付けるように、比べた結果の写真に補助線を引いたり、丸く囲んだりする。(T 1) ・ Bが比べ方のポイントを言葉で表現できるように、「どうしてそう動かししましたか?」「どうやって本物を見つけることができましたか?」と比べ方について発問をする。(T 1) ・ 児童が視覚的に自分の学習を振り返ることができるように、児童が撮影した写真をモニターに映し花丸を書いたり、板書のめあてに花丸を書いたりする。(T 1)	iPad モニター
10:29 (1)	5 おわりの挨拶をする。	・次時に意欲をもてるように、「次もレベルアップを目指しましょう」と言葉掛けをする。(T 1)	

(7) 評価

- 〈生徒〉・比べるものの端をそろえる、隣りに並べるなどのポイントに気を付けて、ピタッとくん(測定器)を使って2つのものの長さを比べることができたか。
・長さを比べた結果を「長い」「短い」「同じ」の言葉や、比べた物への指さしなどで表現することができたか。
- 〈教師〉・児童がポイントに気を付けて、ピタッとくん(測定器)を使って長さを比べるための教材教具や教師の働き掛けは適切であったか。
・児童が長さ比べの結果を言葉や指さしで表現するための教師の働きかけや教材教具は適切であったか。

(8) 個別の目標(本時)に関わる支援

児童名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	・教師の話や友達の学習に様子に注意を向けることができるように話している人の方を指さしたり、「○○さんを見ます」と言葉掛けをしたりする。(T 2) ・長さ比べで手が止まってしまったときは、やり方に気付くことができるように「どこに置くといいですか?」「どこをピタッとしますか?」と言葉掛けをする。(T 1) ・自分でポイントに気付けるように、あえて端をそろえなかったり、比べる物を遠くに置いたりして「こうなっていたらどうしますか?」「黒板のポイントと比べるとどうですか?」と言葉掛けをする。(T 2) ・自分で長いか短いかを判断することができるように、ピタッとくん(測定器)の写真をモニターで拡大して提示したり、長短の差の部分に補助線を引いたりする。(T 1)	全体 3 長さ比べ
B	・自分で長さを比べるポイントに気付けるように、正しい測り方のポイントを黒板に掲示しておく。(T 1) ・長さを比べる時のポイントや、どうして短いと判断したのかを言葉で表現できるように、「どうやって比べたら本物が見つかりましたか?」「どうして短いと思いましたか?」などと発問をする。(T 1)	3 長さ比べ
C	・気持ちが不安定になったときは「ミッションクリアを目指しましょう」「花丸がつくように頑張ろう」と励ましたり、気持ちが落ち着くまで教室を出たりする。(T 2) ・自分でポイントに気付けるように、あえて端をそろえなかったり、比べる物を離して置いたりして「こうなっていたらどうしますか?」と言葉掛けをする。(T 2) ・短い物を「短い」と言うことができるように、ピタッとくん(計測器)の写真を示し、長短の差を丸く囲んで、「隙間があると長いでしょうか?短いでしょうか?」と発問する。(T 1)	3 長さ比べ

中学部 1・2 年 国語科 学習指導案

日 時：11月22日(金) 2校時
場 所：中学部1年生教室
生 徒：中学部 1・2年生 4名
指導者：千葉璃子、成田高子

1 単元名 理由マスターになろう！～相手に理由を伝えるためには？～

2 単元の目標

- (1) 理由を表す言葉の働きや文の構成について知る。(知識・技能)
- (2) 自分の考えや気持ちの理由となる内容が分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。
(思考力・判断力・表現力)
- (3) 声の大きさや話す速さ、発表態度に気を付けて相手に伝える。(学びに向かう力、人間性)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本学習グループは、中学部1年生の男子2名、女子1名、2年生の女子1名で構成されている。4名とも関心に偏りがあり、自分の好きなことには進んで取り組むが、興味のないものと集中が続かないことがある。自分が学習したことのある活動や経験したことへの関心は高く、自信をもって取り組むことができる。一方で、初めてのことや一度つまづいてしまったことに対しては苦手意識をもち、活動に取り組むまでに時間がかかる生徒もいる。

書くことに関しては、小学校2～3年生程度の漢字の読み書きができる生徒や、特定の漢字のみ読み書きできる生徒がいる。一方で、全体的に長音や拗音、促音の使い方を間違えたり、平仮名をカタカナに変換することが難しかったりするといった課題も見られる。話すことに関しては、4名とも自分の好きなことや経験したことを周りに伝えたいという意欲があり、教師との会話を好む姿が見られる。しかし、話す事柄の時系列が前後したり、伝えたい内容を一つに絞って話したりすることに課題が見られる。また、自分の考えや気持ちは話せるが、その理由を話すことは難しく、教師に「なぜ楽しかったのですか？」と理由を問われたときに首を傾げたり、「分かりません」と話を終えようとしたりする。また、4名とも発表場面では声が小さくなってしまったり、自信のなさから教師に話す内容を聞いたりすることがあるが、行事の感想発表や司会などには進んで取り組んでいる。また、聞くことに関しては、聞く態度は身に付いてきているものの、内容を正確に聞き取ることは難しい。

(2) 単元について

本グループでは、「伝える力」を育むために、年間を通して単元を設定している。前単元では「初めに」「次に」「最後に」という順序を表す言葉を用いて時系列に沿って伝える学習や、主語・述語を用いて出来事を伝える学習をしてきた。本単元では、理由を表す言葉を知り、「理由の伝え方」について学習する。理由を伝えられることで、自分の気持ちや考えを整理することができ、自己理解につながると考えた。また、理由とともに自分の考えを相手に伝えることで、誤解を生じさず、良好な人間関係の形成につながると考えた。これらのことから、理由の伝え方を学習することは大切であると考え、本単元を設定した。

本単元では、星本の内容を参考とし、自分の気持ちや出来事とその理由の整理、理由を表す言葉を用いた文の構成について学習する。自分の気持ちや理由を整理するために、ロイロノートの思考を可視化するツール「ウェビング図」(以下、ウェビングとする)を用いる。ウェビングは、一つの題材に対して思考を広げ、言葉をつなげて関連付けたりまとめたりすることができるため、その中から自分の伝えたい内容とその理由を選択して理由の文を書くことができると考えた。伝える題材としては、自分の好きなことや苦手なこと、経験したことなどを扱い、題材を変えながら繰り返し理由を考える時間を設定する。自分の話したことが伝わるという経験を積むことで、発表への自信につながり、「自分のことを伝えたい」と意欲をもって活動に取り組んだり、適切な話し方や聞き方を身に付けたりすることができるのではないかと考えた。単元の最後には、ウェビングやワークシートを用いずに、グループの友達や教師と一緒に様々な題材について理由を発表し合う場面を設定する。ウェビングやワークシートを用いずに理由を伝える場面を設定することで、自分で理由を考えて話せるようになったという自信や学びの実感につながると考えた。また、4名とも「発表会」といった全体の場になると緊張や苦手さから主体的な参加が難しいため、発表ゲームとして学びを発揮できる場を設定した。

国語科の学習のみではなく、日常生活や作業学習の場面で自分の気持ちとその理由を話したり、学習の振り返りで用いるキャリアノートの記入や学部集会での発表で自分の気持ちや経験したこととその理由を整理したりと、国語科での学習を生かす場面設定をする。そうすることで、本単元の学びを他教科の場面でも生かして発揮することができ、他者から認められたり、称賛された

りする経験を積んでいくことで、学びの実感につながると考えた。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・理由の伝え方が分かり、自分で理由を表す言葉を使って文をつくることができるように、理由を考える学習活動を題材を変えながら繰り返し設定する。(主・深)
- ・相手に伝えるときや発表するときに気を付けることが分かるように、声の大きさや話す速さ、立ち方や顔の向きなどの態度面について、教師の演示や掲示物で確認する。(深)
- ・確実に相手に伝えたり伝わったりする実感を積むことができるように、ペアで伝え合う場面を設定する。(対)
- ・自分の発表内容が伝わったと感じられるように、ペアで感想カードを渡し合う場面を設定する。(対・深)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・理由を表す言葉を使って文を組み立てられるように、理由を書く部分が空欄になったワークシートを配付する。(主・深)
- ・自分の話したことが相手に伝わったと感じられるように、感想カードを用意する。(対)
- ・友達からの感想カードと前時までの振り返りの内容を確認できるように、感想カードと振り返り欄を1枚にまとめた振り返りシートを用意する。(主・深)

〈教師の働きかけ〉

- ・理由を表す言葉を使って文を書くことができるように、必要に応じて理由を表す言葉が書かれたヒントカードを提示する。(主・深)
- ・ウェビングから理由となるものを選択できるように、「一番の思い出は何ですか」と問い掛けたり、対話しながら一緒に考えをまとめたりする。(対・深)
- ・相手に伝えるときに意識することが分かるように、「どんなポイントに気を付けて話すとよいでしょうか」と問い掛けたり、掲示物や動画を用いて声の大きさや話す速さを示したりする。(主)

4 指導計画(総時間数 18時間)

単元名、学習内容	目標	時数	関連する 学習指導要領の項目
○理由の伝え方を知ろう！ ・理由を表す言葉に、理由となる内容を当てはめて文をつくる。	・「なぜなら～からです」などの理由を表す言葉を知る。(知・技) ・ウェビングから理由となる内容を見付け、「なぜなら～からです」といった文に当てはめる。(思・判・表)	6時間	【目標】1段階 【内容】1段階ア(オ) イ(ア)
○理由を伝えよう！① ～文を組み立てよう～ ・理由を表す言葉を自分で選択し、文を組み立てて書く。 ・組み立てた文をペアで伝え合う。	・ワークシートを用い、理由を表す言葉と内容を選択して文を書く。(知・技)(思・判・表)	5時間	【目標】1段階 【内容】1段階 A イ、ウ B ア、イ
○理由を伝えよう！② ～文を書こう～ ・理由を表す言葉を用いて文を書く。 ・書いた文をペアで伝え合う。	・理由を表す言葉を用いて、文を書く。(思・判・表)	3時間 (本時 3 / 3 時間)	【目標】1段階 【内容】1段階 A イ、ウ B ア、イ
○理由を伝えよう！③ ～考えて話そう～ ・題材に沿って理由を考え、ペアで伝え合う。 ・全体で発表する。	・理由を表す言葉を用いて文を考える。(思・判・表) ・声の大きさや話す速さ、伝えるときの態度に気を付けて、相手に伝える。(学、人)	2時間	【目標】1段階 【内容】1段階 A イ、ウ、エ B ア、イ
○理由を発表し合おう！ ～発表ゲーム～ ・ルーレットで題材を選び、自分の考えと理由を話す。	・自分の考えとその理由を思い浮かべ、理由を表す言葉を用いて文をつくる。(思・判・表) ・声の大きさや話す速さを意識し、立ち方や顔の向きなどに気を付けて発表する。(学、人)	2時間	【目標】1段階 【内容】1段階 A イ、ウ、エ

5 本時の計画（総時数 14 / 18）

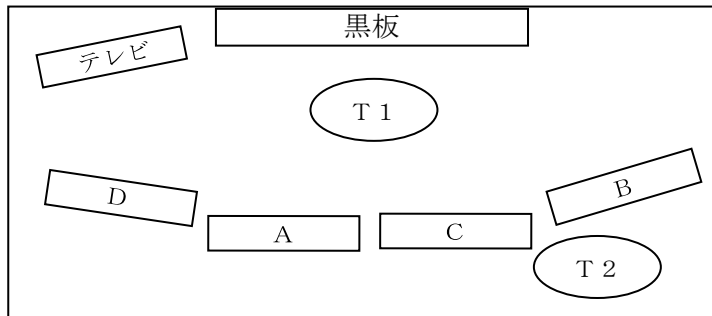
（１）全体の目標

- ・ウェビングから理由となる内容を選択し、「なぜなら～からです」や「理由は～からです」などの理由を表す言葉を用いて文を書く。（思・判・表）

（２）個別の目標

氏名	生徒の実態と学習の様子	単元の目標	本時の目標
A	理由を話すときには、「～からです」と話すが、「なぜなら」といった理由を表す言葉を文のどこに用いるのか、どのように文の順序を組み立てればよいのかを考えることは難しい。発表に関しては、声の大きさや態度に気を付けて話そうとするが、大人数の前では声が小さくなってしまうことがある。	・理由を表す言葉の働きや、理由を伝えるときの文の構成を理解する。（知・技） ・伝えたいことの理由が分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。（思・判・表） ・声の大きさに気を付けて話したり、発表態度を意識して発表したりする。（学、人）	・ウェビングの中から理由となる内容を選択し、理由を表す言葉を用いて文を書く。（思・判・表）
B	「なぜなら～からです」は、理由を説明するときに用いるということを理解しているが、単語で気持ちを伝えたり、「どうしてですか？」と聞かれても気持ちや理由を適切な言葉で伝えることができなかったりする。発表では、「恥ずかしい」とふざけて極端に声の大きさを変えたり、早口で話したりすることがある。	・理由を表す言葉とその働きや、文の構成を理解する。（知・技） ・自分の思いとその理由が分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。（思・判・表） ・声の大きさや話す速さを意識し、自分で調整して話す。（学、人）	・ウェビングの中から理由となる内容を選択し、「なぜなら」や「理由は」などの理由を表す言葉を用いて文を書く。（思・判・表）
C	「なぜなら～からです」が理由を表す表現であることは理解しているが、自分の気持ちに対する理由が分からず、伝えられないときがある。発表では、話すことが明確であれば、自分で伝わりやすいように言い換えたり、自信をもって発表したりすることができるようになってきた。気持ちによって、声の大きさや発表態度を意識できないことがある。	・理由を表す言葉を知り、自分の考えとその理由に関する文の構成について理解する。（知・技） ・一番伝えたいことの理由が分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。（思・判・表） ・相手に聞こえる声の大きさや発表態度に気を付けて話す。（学、人）	・ウェビングの中から一番伝えたい内容を選択し、理由を表す言葉を用いて文を書く。（思・判・表）
D	書くときに促音や拗音を飛ばしたり一文字抜いたり、書くことに苦手さがある。教師からの言葉掛けを受けて、自分で直すことができる。「なぜなら～からです」が理由を表す言葉だと分かっているが、考えを具体的な言葉や文で書き表すことが難しかったり、理由を表す言葉を用いずに理由を伝えたりすることがある。自分から手を挙げて発表しているが、動きながら発表したり、小さな声で話したりと発表態度や声の出し方に課題がある。	・理由を表す言葉とその働きや、理由を伝えるときの文の構成について理解する。（知・技） ・自分の考えと伝えたい理由が分かり、理由を表す言葉を用いて文をつくる。（思・判・表） ・相手に聞こえる声の大きさや話す速さを自分で調整して、相手に伝える。（学、人）	・ウェビングの中から一番伝えたい内容を選び、理由を表す言葉を用いて文を書く。（思・判・表）

(3) 配置図 < 中学部 1 年教室 >



(4) 板書計画

理由マスターになろう！
 ～相手に理由を伝えるためには？～
 めあて

理由はどのような言葉を使ったら伝わるだろうか。
 ～若鷹祭の思い出し～

一．理由を考えよう

二．ペアで伝えよう

まとめ

なぜなら
 理由は
 なぜかというところからです。
 と書くと、理由が伝わりやすい！

三．ふり返り

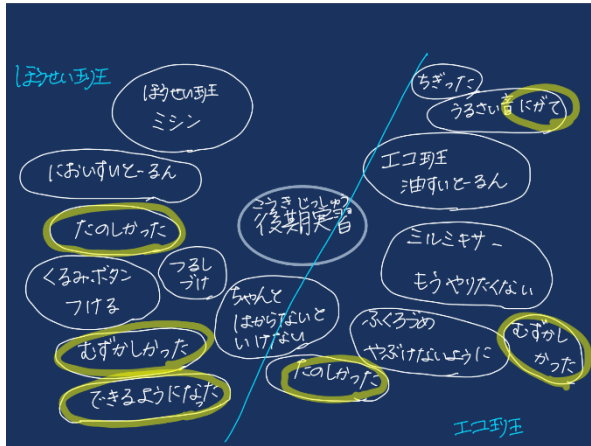
- ・ 分かったこと
- ・ 次がんばりたいこと
- ・ 友だちの考えについて

単元表

①理由の言葉を知ろう	②好きなおかし	③好きなくたもの
...	...	...

(5) 参考資料

- 「後期実習」を題材としたウェビング図の例。
(ロイロノートでT2が作成)
※本時では「若鷹祭ステージ発表の思い出」を
題材として同様の図を作成する。



○文を書くワークシート

	テーマ…若鷹祭のステージ発表 わかつたかさい はっぴよう
--	--

ウェビングの中から最も伝えたいことを選択して赤丸で印を付け、気持ちとその理由となる部分を線で結ぶ。ウェビングで選択したことを見ながら、紙のワークシートに「若鷹祭のステージ発表が～です。なぜなら○○だからです。」といった理由の文を書く。

○理由さがしカード

	理由さがしカード ○理由 ○気持ち
--	-------------------------

○振り返りシート

理由さがしカード 月 日 テーマ ・分かったこと ・次がんばりたいこと 担任から	理由さがしカード 月 日 テーマ ・分かったこと ・次がんばりたいこと 担任から	理由さがしカード 月 日 テーマ ・分かったこと ・次がんばりたいこと 担任から
---	---	---

伝え方マスターになろう！相手に理由を伝えるには？

名前

(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、学びの実感を高める働き掛け、手立て。
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (5)	1 始めの挨拶をする。 2 前時の内容を振り返る。 3 本時の学習内容とめあてを確認する。 めあて 理由はどのような言葉を使ったら伝わるだろうか。 ～若鷹祭ステージ発表の思い出～	・姿勢を正して挨拶することができるように、一人一人と目線を合わせたり、よい姿勢の生徒を称賛したりする。(T1) ・前時の内容を振り返ることができるように、前時のテーマや感想カードを紹介する。(T1)	i P a d モニター
9:50 (40)	4 若鷹祭の思い出と理由を考える。 (1) 写真を見ながら、若鷹祭の思い出やその時の気持ちを答える。 (2) ウェビングの中から、思い出を一つ選び、赤丸で印を付ける。 (3) 理由を表す言葉を使って、文を書く。 例「私は、若鷹祭が楽しかったです。なぜなら～からです。」 5 若鷹祭の思い出と理由を伝え合う。 ①ペアで伝え合い、お互いに理由さがしカードを書いて渡す。 (A、D)、(B、C) ②自分が書いた文の理由を表す言葉に丸を付ける。 ③書いた文を撮影し、ロイロノートで教師に提出する。	・若鷹祭の思い出を振り返り、出来事や気持ちを思い出せるように、モニターに写真を映し、思い出について問い掛ける。(T1) ・自分の気持ちとその理由を整理して文で書くことができるように、写真を見たときの生徒の発言をウェビングでまとめ、生徒のロイロノートへ送る。(T2) ・理由を表す言葉を使って文を組み立てられるように、理由を書く部分が空欄になった文型を紙で配付する。 ・ウェビングから理由となる部分を選択できるように、「その時どんな気持ちでしたか」と問い掛けたり、生徒の考えを聞いて「だから楽しかったのですね」と考えをまとめたりする。(T1、T2) ・理由を表す言葉を使って文を書くことができるように、必要に応じて理由を表す言葉が書かれたヒントカードを提示する。 ・ 自分の書いた内容が相手に伝わったと実感できるように、聞き手が理由さがしカードを書いて渡す場面を設定する。	i P a d モニター 若鷹祭の写真 ウェビング 文を組み立てるシート ヒントカード 理由さがしカード
10:30 (5)	6 振り返りをする。 (1) 画面配信された友達の文を見る。 (2) 振り返りシートに感想カードを貼り、振り返りを書く。 (3) 次時の学習について見通しをもつ。 7 終わりの挨拶をする。	・理由を表す文を書けているか確認できるように、全員の文をロイロノートで画面配信して紹介する。(T1) ・どんな言葉を使って理由を表したかを振り返られるように、まとめを板書する。 ・本時の達成感や次時の見通しをもてるように、単元表に花丸を付け、次時以降の学習予定を示す。(T1) ・姿勢を正すことができるように、よい姿勢の生徒を称賛したり、正しい姿勢のポイントを伝えたりする。(T1)	振り返りシート

(7) 評価

〈生徒〉・ ウェビングから理由を選び、理由を表す言葉を用いて文を書くことができたか。

〈教師〉・ 生徒が理由となる言葉と内容を選んで文を書くことができるように、ウェビングやワークシートといった教材を有効に活用したり、考えを膨らませるような言葉掛けをしたりすることができたか。

(8) 個別の目標（本時）に関わる支援

生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	・理由を表す言葉を用いて、文を書くことができるように、ウェビングを指差しながら「理由になる部分はどの出来事ですか」と問い掛けたり、必要に応じて教師が文にする順番をウェビングに書き入れたりする。 (T 1)	4 若鷹祭の思い出と理由を考える。
B	・ウェビングから理由となる部分を選択し、理由を表す言葉を用いて文を書くことができるように、写真を見ながら若鷹祭での気持ちを問い掛けたり、教師と対話をして考えをまとめたりする時間を設ける。(T 2)	4 若鷹祭の思い出と理由を考える。
C	・ウェビングから一番伝えたいことを選んで、文を書くことができるように、ウェビングを指差しながら「どうしてそう思ったのですか」と問い掛けたり、前時のワークシートを確認するように伝えたりする。(T 2)	4 若鷹祭の思い出と理由を考える。
D	・自分の理由となるものを選んで、文を書くことができるように、「どうしてそう思ったのですか」と問い掛けたり、必要に応じて教師が文にする順番をウェビングに書き入れたりする。(T 1)	4 若鷹祭の思い出と理由を考える。

高等部 国語科Aグループ 学習指導案

日 時：12月19日(木) 2校時
場 所：高等部1年教室
生 徒：高等部1、2年生 8名
指導者：港拓哉(T1)、佐々木恭兵(T2)

1 単元名 豊かな表現で伝えよう ～続・文章で伝えよう～

2 単元の目標

- (1) 伝わりやすい言葉を選び、様々な表現方法を用いて文章を考える。(知・技)
- (2) 相手や目的に合わせて伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書く。(思判表)
- (3) 相手への伝わりやすさを意識し、伝えたい内容を言葉や文章で表したり、より詳しく伝わる表現で話したりして伝える。(学、人)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

1年生男子2名、女子2名、2年生男子2名、女子2名の計8名の学習グループである。全員言葉によるコミュニケーションが可能であり、友達や教師と会話をしたり、作業学習等の場面で必要な報告、連絡、相談等を行ったりすることができる。また、小学校3～5年程度の漢字の読み書きが概ねでき、新聞などの文章から情報を読み取ったり、板書やメモ書き等の指示を読んで行動したりすることができる。

自分の気持ちや考えを話すことができる一方で、状況を詳しく伝えたり、順を追って説明したりすることを苦手としている生徒や、語彙力や表現力の低さから自分の気持ちを的確な言葉で伝えることが難しい生徒がいる。自分の考えや気持ちを伝えることに自信をもてず、意見を発信する意欲が低いように見受けられることも多い。

「困っていることを誰かに話し、分かってもらいたい」「自分の話を聞いてほしい」という気持ちをもっている生徒が多い反面、日常生活場面においては、友達とのやりとりの中で自分の言いたいことをうまく言葉にできずに誤解を招いてしまったり、目上の人との会話の際に言葉を選んで話すことに難しさを感じたりしている現状にある。

相手にとって分かりやすく伝える、できるだけ詳しく話す、時系列で状況を説明できるなどの力は社会生活を送る上でも重要で、一般就労を目指す生徒が多い本学習グループにとっての課題の一つであり、身に付けさせたい力である。

(2) 単元について

本単元は、自分の気持ちや考え、伝えるべき内容などを相手の状況や、トピックの内容に合わせて適切に伝える力の向上を主な目的としている。これまでの学習では、状況を読み取って整理して伝える力の向上を目指し、一枚の写真から情報を読み取って整理して文章にする学習に取り組んだ。また、語彙を増やしたり、様々な言葉による表現方法を増やしたりすることを目指し、擬音語、擬態語を使って表現する学習や他の言葉に言い換えたりする学習にも取り組んできた。これらの学習を通して、多面的に情報を読み取ったり、物事の前関係に注目したりすることができるようになるなどの変化が見られてきている。また、友達の考えや表現方法を知ること、個々の考えを深め、より詳しく伝えるための表現の仕方を考えることができるようになってきている。これまでの学習に加え、詳しく伝えたい部分に着目して言葉の表現を考える学習や、物事を順序立てて考え整理して文章を書く学習、また伝えたい内容がより相手に伝わりやすいように、相手や場に応じた話し方や敬語を使用して表現する学習を積み重ねていく。その積み重ねの中で、伝えたい相手や状況、内容に合わせて自分の気持ちを適切に表現し、自分に自信をもち、コミュニケーションすることの楽しさを知ってもらいたい。また、本学習で身に付けた力は、今後の学校生活や将来の社会生活の様々な場面で生かされると考える。以上の理由で本単元の内容を設定した。

(3) 指導に当たって

〈学習活動〉

- ・自分の考えをまとめたり深めたりすることができるように、テーマに沿ってじっくりと考える時間や考えをワークシートに書き出す時間を設定する。(主)
- ・様々な表現の仕方を知ったり気付いたりすることができるように、友達との情報交換、または友達の考えに触れる時間を設定する。(主・対)
- ・活動への見通しをもったり前時までの内容を積み重ねたりしやすいように、一単位時間の学習を毎回同じ流れで行う。(主)
- ・前時までの学習を振り返ることができるように、導入の際に、板書等の記録をモニターに映し出して確認する。(主・対)

〈場の設定、教材・教具〉

- ・自分と友達の考えを比較したり、友達のよい意見を参考にしたりしやすいように、全員が同じ課題に取り組む。(対・深)
- ・よい考えに気付いたり考えを深めたりできるように、ペアや小グループでの意見交換の機会を設定したり、発表場面を設定して友達の意見を見聞きする機会を作ったりする。(対・深)

〈教師の働きかけ〉

- ・生徒が自分の考えを自信をもって表現できるように、肯定的な言葉を掛ける。(主・深)
- ・よい意見に気付いたりよい意見を取り入れて考えたりできるように、生徒のよい意見や気づきを随時取り上げ、全員で共有できるように紹介する。(対・深)
- ・全体指示に注目できるように、言葉掛け及び指示のタイミングに留意する。(主)
- ・生徒の考えを引き出せるように、発問、例示等をしたり、必要に応じて選択肢を提示したりする。(主・深)
- ・T2は考えをまとめることに時間がかかる生徒の支援を行い、必要に応じてヒントを出したり、他の友達との話し合いをつないだりする。(主・深)

4 指導計画（総時間数 18時間）

単元名、学習内容	目標	時数	学習指導要領の項目
○豊かな表現で伝えよう ～写真から読み取ろう～	・多面的に情報を読み取る。(知・技) ・物事の前後関係を考える。(知・技) ・読み取った情報を相手に伝える。 (思判表)	4時間	2段階【知・技】 ア (ア) (イ) (カ) 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと
○豊かな表現で伝えよう ～言葉を飾ろう～	・言葉の意味や様々な表現方法を知る。(知・技) ・修飾語を使ったり、ほかの言葉に言い換えて伝えたりする。 (思判表)	3時間	2段階【知・技】 ア (ア) (イ) (カ) 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと
○豊かな表現で伝えよう ～文章で伝えよう～	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。 (知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、伝えたい部分をより詳しく表現する。(思判表) ・伝えたいことを明確にし、相手にイメージが伝わるような言葉を選んだり、文章を工夫したりする。 (学、人)	4時間	1段階【知・技】 ア (ア) (イ) (エ) イ (ア) 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと イ、ウ、エ B 書くこと ア、イ、ウ、エ、オ 2段階【知・技】ア (カ)
○豊かな表現で伝えよう ～続・文章で伝えよう～	・相手や目的に合わせて伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書く。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、自分の言葉で話したり文章にしたりして伝える。(思判表) (学、人)	5時間 (本時4 / 5時間)	1段階【知・技】 ア (ア) (イ) (エ) イ (ア) 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと イ、ウ、エ B 書くこと ア、イ、ウ、エ、オ 2段階【知・技】ア (カ)
○豊かな表現で伝えよう ～読んで伝えよう～	・伝える相手や伝えたい内容を明確にして相手や場に応じた話し方を する。(知・技) (思判表) ・伝えたい内容がより伝わるように、言葉を選んで話したり、話し方を工夫したりする。(学、人)	2時間	2段階【知・技】 ア (ア) (イ) (カ) 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと 1段階【思・判・表】 A 聞くこと・話すこと イ、ウ、エ

5 本時の計画（総時数 15 / 18）

（１）全体の目標

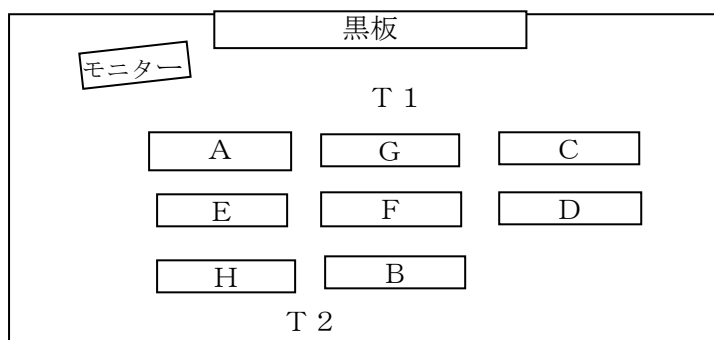
- ・伝えたい内容を明確にし、伝わりやすい言葉を選んだり、詳しく伝えるための言葉を考えて使ったりする。（知・技）
- ・伝えたい内容についてより詳しく表現したり、修飾語等今までに学んだ事項を使ったりしながら文章を書く。（思判表）

（２）個別の目標

氏名	生徒の実態と学習の様子	単元の目標	本時の目標
A	相手や状況に応じた話し方をすることに課題をもっている。積極的に自分の考えを書くことが多く、友達の意見を取り入れて文章を工夫しようとする様子も見られる。	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。（知・技） ・伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書く。（思判表） ・伝わりやすさを考え、使う言葉を選んで話したり文章にしたりして伝える。（学、人）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、イメージが相手に伝わるような言葉を使って表現する。（知・技） ・相手への伝わりやすさを意識した表現を使ったり、説明するための文章を考えたりする。（思判表）
B	場に応じた話し方や敬語を使って話すことに課題をもっている。自分の考えを積極的に書いたり、友達の意見を参考にして書いたりする様子が見られる。気持ちの状態が学習態度に影響しやすい。	・伝わりやすい単語や言葉の表現の仕方を知り、自分の言葉として使う。（知・技） ・伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。（思判表） ・相手に伝わりやすいように言葉を選んで話したり、文章を書いたりする。（学、人）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、自分のイメージに合った言葉を選んで書く。（知・技） ・相手への伝わりやすさを意識し、既習事項を参考にして使う言葉や表現を工夫して文章を書く。（思判表）
C	自分の考えを話したり、自分から相談したりすることに課題がある。自分の考えを書き表すことができ、友達の考えを取り入れようとする様子も見られるようになってきた。気持ちの状態が学習態度に大きく影響する。	・伝わりやすい単語や言葉の表現の仕方を知り、自分の言葉として使う。（知・技） ・伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。（思判表） ・相手に伝わりやすいように言葉を選んで話したり、文章を書いたりする。（学、人）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、自分のイメージに合った言葉を選んで書く。（知・技） ・相手への伝わりやすさを意識し、使う言葉や表現を工夫して文章を書く。（思判表）
D	自分の気持ちを話したり、自分から相談したりすることに課題をもつ。自分の考えを書く活動に意欲的に取り組んでいる反面、友達の意見を取り入れようとする意識は低い。	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。（知・技） ・伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書く。（思判表） ・伝わりやすさを考え、使う言葉や表現方法を選んで話したり文章にしたりして伝える。（学、人）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、イメージが相手に伝わるような言葉を使って表現する。（知・技） ・相手への伝わりやすさを意識した表現を使ったり、説明するための文章を考えたりする。（思判表）
E	友達に自分の気持ちを伝えるなどのコミュニケーション面に課題がある。友達のよい意見に気付くことができる反面、それを取り入れて文章を書くことが難しい。	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。（知・技） ・伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。（思判表） ・伝わりやすさを考え、使う言葉を選んで話したり文章にしたりして伝える。（学、人）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、イメージが相手に伝わるような言葉を使って表現する。（知・技） ・相手への伝わりやすさを意識した表現を使ったり、説明するための文章を考えたりする。（思判表）
F	相手や状況に合わせた話し方に課題がある。相手に伝えるという趣旨を	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。（知・技）	・詳しく伝えたい部分を明確にし、自分のイメージに合った言葉を選んで書

	考え、言葉を選んで表現しようとする様子が見られる。	・伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。(思判表) ・伝わりやすさを考え、使う言葉を選んで話したり文章にしたりして伝える。(学、人)	- く。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、使う言葉や表現を工夫して文章を書く。(思判表)
G	場に適した話し方や敬語を使って話すことに課題をもつ。相手に詳しく伝えるという趣旨を理解し、使う言葉を工夫して表現しようとする様子が見られる。	・伝わりやすい言葉を選んで使ったり、言葉の表現を工夫したりする。(知・技) ・伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書く。(思判表) ・伝わりやすさを考え、使う言葉を選んで話したり文章にしたりして伝える。(学、人)	・詳しく伝えたい部分を明確にし、イメージが相手に伝わるような言葉を使って表現する。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識した表現を使ったり、説明するための文章を考えたりする。(思判表)
H	教師や友達に自分の考えを伝えながら活動することを目標としている。自分の考えを話したり、友達の意見を取り入れて文を書いたりすることができるようになってきた。	・伝わりやすい単語や言葉の表現の仕方を知り、自分の言葉として使う。(知・技) ・伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。(思判表) ・相手に伝わりやすいように言葉を選んで話したり、文章を書いたりする。(学、人)	・他の友達と詳しく伝えたい部分を明確にし、自分のイメージに合った言葉を選んで書く。(知・技) ・相手への伝わりやすさを意識し、使う言葉や表現を工夫して文章を書く。(思判表)

(3) 配置図 <高等部1年教室>



(4) 板書計画

まとめ ・「味」を詳しく ・おすすめのシーンを提示	課題 オレンジジュースの宣伝文を書きましょう。	めあて 商品のよさを相手に伝えるには、どんな宣伝文を書けばよいだろうか。	豊かな表現で伝えよう
---------------------------------	----------------------------	---	------------

(5) 参考資料(教科書や教材等) [ワークシート]

【ワークシート】 (1) 伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。(思判表) (2) 伝わりやすさを考え、使う言葉を選んで話したり文章にしたりして伝える。(学、人)	(3) 場に適した話し方や敬語を使って話すことに課題をもつ。相手に詳しく伝えるという趣旨を理解し、使う言葉を工夫して表現しようとする様子が見られる。 (4) 教師や友達に自分の考えを伝えながら活動することを目標としている。自分の考えを話したり、友達の意見を取り入れて文を書いたりすることができるようになってきた。	(5) 伝わりやすい単語や言葉の表現の仕方を知り、自分の言葉として使う。(知・技) (6) 伝えたい内容を明確にし、短い文章で表現する。(思判表) (7) 相手に伝わりやすいように言葉を選んで話したり、文章を書いたりする。(学、人)	(8) 詳しく伝えたい部分を明確にし、イメージが相手に伝わるような言葉を使って表現する。(知・技) (9) 相手への伝わりやすさを意識した表現を使ったり、説明するための文章を考えたりする。(思判表)	(10) 豊かな表現で伝えよう
--	---	--	--	-----------------

(6) 学習過程 ※ **ゴシック体太字**は、学びの実感を高める働き掛け、手立て。
網掛けは個別の目標に関わる働き掛け、手立て

時間(分)	学 習 活 動	教師の働きかけ、手立て	準備物等
9:45 (1)	1 始めのあいさつ	・全体指示に注目できるように合図または、言葉掛けをする。(T 1)	タブレット端末 モニター
9:46 (5)	2 本時のめあてと学習内容の確認	めあて 商品のよさを相手に伝えるには、どんな宣伝文を書けばよいだろうか。 ・板書を併用し、簡潔に伝える。(T 1) ・前時までの学習内容に触れ本時の学習課題を伝える。(T 1) 学習課題 オレンジジュースの宣伝文を書きましょう。	
9:51 (10)	3 文章で伝えよう① ・学習課題に沿った内容を考え、文章を書く。	・考えをさせるように、生徒に質問をしたり、前時までの内容を思い出させたりするような言葉掛けをする。(T 1、T 2)	
10:01 (8)	4 文章で伝えよう② ・追加条件を踏まえて内容を考え、文章を書く (追加条件： お客さんが小学生)	・使っている言葉や文章の内容、表現方法などに気付くことができるように、着目すべきポイントを示す。(T 1)	ワークシート
10:09 (5)	5 友達との情報交換 (グループ毎) ・ A、B、C、D ・ E、F、G、H	・「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 1、T 2)	
10:14 (7)	6 グループ協議 ・グループで一つの文章を考える。	・友達の意見を参考にして考えることができるように共有した意見について再度示す。(T 1、T 2)	
10:21 (8)	7 まとめ ・グループで考えた文章を発表する。 ・発表内容を基に本時のポイントとなる表現を確認する。	・情報共有がしやすいように、グループ毎のワークシートをモニターに映し、注目すべきポイントを示す。(T 1、T 2) ・気付きや学びを実感しやすいように、生徒からの発表内容を生かしながらまとめる。(T 1)	
10:29 (5)	8 振り返り ・まとめの内容を確認し自分の文章を評価する。	・自分の文章を読み直すことができるように、まとめで示されたポイントを基に気付いたことをメモしたり、うまく書けている部分に線を引いたりするよう指示する。(T 1)	
10:34 (1)	9 終わりのあいさつ		グループ用ワークシート

(7) 評価

- 〈生徒〉・伝えたい内容に着目し、自分の考えに合った言葉を使ったり、表現方法を工夫したりして伝えることができたか。
- 〈教師〉・めあてを達成するための学習課題の設定や生徒への働き掛け、まとめの方法は適切であったか。

(8) 個別の目標(本時)に関わる支援

生徒名	目標を達成するための教師の働き掛け、手立て	支援を行う学習活動
A	・使っている言葉や文章の内容、表現方法などに気付くことができるように、着目すべきポイントを示す。 (T 1)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう② 6 グループで考えた文章
B	・友達の文章からより相手に伝わる文章を考えられるように、「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 2)	3 文章で伝えよう① 4 友達との情報交換 5 文章で伝えよう②
C	・友達の文章からより相手に伝わる文章を考えられるように、「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 2)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう②
D	・使っている言葉や文章の内容、表現方法などに気付くことができるように、着目すべきポイントを示す。 (T 1)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう② 6 グループで考えた文章
E	・友達の文章からより相手に伝わる文章を考えられるように、「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 2)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう②
F	・友達の文章からより相手に伝わる文章を考えられるように、「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 2)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう② 6 グループで考えた文章
G	・使っている言葉や文章の内容、表現方法などに気付くことができるように、着目すべきポイントを示す。 (T 1)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう② 6 グループで考えた文章
H	・友達の文章からより相手に伝わる文章を考えられるように、「互いの文章表現に似ている点があるか」や「友達の書いた文章の中に、自分の文章に取り入れられそうな部分はあるか」などの発問をする。(T 2)	3 文章で伝えよう① 5 友達との情報交換 4 文章で伝えよう②